

宇都宮市立横川中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の思いや考えを言葉で表現したり説明したりする力の育成	児童が自分の思いや考えを言葉で表現したり説明したりする場を授業の中に設け、特に言語活動「書くこと」を通して表現できるよう指導している。	4～6年生は、国・県・市の調査ともに、記述式設問の無回答率が市の平均と比べて低く、書こうという意欲が見られる傾向にある。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初め4月に、家庭学習に関する保護者あて通知を出し、学校としての家庭学習の基本的な考え方や自主学習の取組例を示し、家庭と連携しながら、習慣化に向けた指導を行っている。	「宿題はきちんとやり、期限までに提出している。」の項目の肯定的に回答した児童の割合は、2年生は100%、1年生は92.8%であったものの、3年生は87.5%、4年生は81.0%、5年生は88.9%、6年生は85.6%であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・4～6年生は、国・県・市の調査ともに、記述式設問の無回答率が市の平均と比べて低く、書こうという意欲が見られる傾向にある。国語科の学習をはじめ、各教科や領域の中で、各学年の発達段階に応じて、各教科・領域の学習の中で書く内容やテーマ、字数などを決めて自分の意見や考えを文章にまとめたり、発表や説明をしたりする機会を計画的に設ける指導・支援をすることで、書くことへの苦手意識や抵抗感を一層なくすよう努めるとともに、児童一人一人の思考力・判断力・表現力のさらなる育成を目指す。

・国・市の調査において、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している。」に肯定的に回答した児童の割合は80%以上だが、「自分で計画を立て、家庭学習に取り組んでいる。」は60%程度である。次年度は、家庭学習に進んで取り組む指導を充実させる。